

「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部2年 神部 葉子

私は以前から留学に興味はあるものの具体的な想像がついておらず、長期留学の前の第一歩として今回のプログラムに参加した。留学の雰囲気を感じるといって、今回のプログラムは自分にとってとても有意義であった。

まず、学習に関して言えば、二週間という短い期間で、授業のコマ数も少なかったため劇的な成長はなかった。一方で、この環境で数ヶ月過ごせばかなり語学が上達するだろうという想像がつき、語学学習の楽しさも改めて実感することができ、もっと長期間学習したいという気持ちも芽生えた。国際交流という面では、あまり満足いくものではなかった。それは、自分自身が現地の学生でなく一緒にプログラムに参加してできた友達と関わる時間が長かったからであり、もっと積極的に現地の学生とコミュニケーションを取れば達成できたのだと思う。今回は現地の学生と関わる時間も少なかったし、自分自身二週間だけだからと友達を作る必要性には駆られなかったが、もし自分が長期留学に行くことになったら日本人とばかり関わらないようにしようという教訓になった。プログラム内容に関して、概ね満足であった。ただ、土日や平日午後など自由時間が多く、学習の割合が少なかったように感じる。特に自分はプログラム内の参加必須の校外学習のようなものが午後の授業とかぶっていて、もともと予定されていた授業の半分ほどしか出席できなかった。同じ授業料を払っていても、人によって出席できる授業数が違うのはやや不満であった。授業の質はよく、きちんと予習、復習の課題が出て着実に中国語力が進歩しそうだと感じた。また、接触杭州のプログラム自体は自分たちだけでは行かないような場所にバスで連れていってもらえることができ、有意義であったと感じる。それ以外の自由時間は、授業の課題をしたり、日本人の友達と繁華街に出て買い物や食事を楽しんだりした。

今回の二週間の短期留学によって、今までは抱けていなかった留學生活の具体的なイメージを掴むことができ、今後は長期留学に挑戦しようと思うきっかけになった。卒業後の進路については、長期留学の経験を踏まえて職種や勤務地を検討したい。二週間を通して一番実感したのは、留学をしたからといってそれだけで何かが劇的に変わるわけではないということだ。環境が変わったとしても、毎日起きて食事をして勉強をして寝る、という生活を淡々と営むことは変わらないのであり、留学に夢を見過ぎず、着実に努力を重ねることが大事なのだと感じた。このような短期留学の機会に恵まれ大変ありがたい。